

第 100 回全国図書館大会「図書館文化を明日の力に」

第 14 分科会図書館の自由@明治大学リビティタワー1153 2014 年 11 月 1 日(土)

報告 「国際政治の言論と図書館；海外の動向－IFLA/FAIFE 活動を中心に－」 10:15~10:45

報告者 井上靖代

(IFLA/FAIFE(国際図書館連盟/情報への自由なアクセスと表現の自由委員会委員(1998-2002、2002-2006、2011-現在)、
日本図書館協会図書館の自由委員会委員(1992-現在)、獨協大学図書館司書課程・司書教諭課程担当教員

yinoue@dokkyo.ac.jp)

主旨

「国際図書館連盟」IFLA(International Federation of Library Associations and Institutions <http://www.ifla.org/>) では、戦略的活動 strategic programs として6つの主な活動¹を担当する「委員会」があり、そのうち図書館における自由に関する分野を中心として表現の自由なアクセスなど幅広く担当しているのが「情報への自由なアクセスと表現の自由に関する委員会」FAIFE (Committee on Freedom of Access to Information and Freedom of Expression²)である。

現在、知的自由に関連する IFLA の活動としては、知的自由の場としての図書館が国連の「ポスト 2015 戦略アジェンダ」で掲げる目標達成のため、情報提供の場となり、社会学習(生涯学習)の場となっていることを国連に認知させ、各国政府に働きかけることを推進している。2015 年 9 月までにおこない、図書館の存在意義と活動が必須であることを 2016 年 1 月以降の国連の開発計画に明示させる。そのため各国図書館協会のみならず関連諸団体に IFLA が表明した「**情報へのアクセスと開発に関するリヨン宣言**」に賛同する署名を求め、国際政治への言論としていくことを働きかけている。

ここではリヨン宣言を中心として、国際政治の舞台でどのように図書館界が発言力を強めようとしているかなどを報告したい。

<1>国際図書館連盟(IFLA)最近の動向について

- ・トレンド報告 Trend Report
- ・「情報へのアクセスと開発に関するリヨン宣言」⇒別紙 1

<2>情報への自由なアクセスと表現の自由に関する委員会 (FAIFE) の活動について

- ・「IFLA 倫理綱領」⇒別紙 2
- ・「インターネット宣言」改訂作業
- ・ほか

<3>情報への自由なアクセスと表現の自由に関する国際的動向

.....

<1> IFLA の活動について

現在、IFLA が重点的に活動している課題は³

(1)図書館とアーカイブ(文書館含む)における著作権の制限と例外(Copyright Limitations and Exceptions for Libraries & Archives)⁴

(2)文化遺産の保存(Cultural Heritage)⁵

(3)情報社会における IFLA の役割(IFLA and the Information Society; Libraries, WSIS and Internet Governance)⁶

(4)図書館と発展(IFLA, Libraries and Development)⁷

(5)図書館にとっての電子貸出(eLending for Libraries; IFLA, ebooks and Access to Digital Content)⁸

があげられている。このうち、

(1)については 2014 年 9 月末に閉会した WIPO(世界知的所有権機関)第 46 回会議において図書館における例外規定についての進展と合議が得られず、図書館資料情報の公平な提供という面での課題が継続化している。

また、(3)では 2002 年以来 IFLA は WSIS(世界情報社会サミット the World Summit Information Society)において積極的な参加をめざしてきている。2005 年以降はこのサミットでのフォーラムに参与し、インターネット・ガバナンス・フォーラム(Internet Governance Forum (IGF))などの実施を通じて世界各国に理解と賛同を求めている。2013 年には IFLA 理事会は IFLA のインターネット・ガバナンスにおける立場(The IFLA Position on Internet Governance)を改訂⁹し、より積極的な関与をめざしている。

さらに、(4)においてはグローバルな視点として「**図書館と開発に関する声明**」(IFLA Statement on Libraries and Development¹⁰, 2013 年 8 月 16 日於: IFLA シンガポール大会)ですでに公表していたように、ポスト 2015 年開発アジェンダと図書館界との関連をトピックとしている。

これら重点とする活動が 2014 年の IFLA 年次大会における「**情報へのアクセスと開発に関するリヨン宣言**」¹¹ (⇒別紙 1) となり、世界各国の図書館協会、大学図書館協会、メディア関連の団体などの賛同(署名)を求める背景となっている。その具体的な情報や活動などについても資料¹²を作成し、IFLA 参加図書館協会のみならず連携する関連団体にも賛同を求めている。

2013 年夏シンガポール大会で IFLA は **Trend Report**¹³を公表した。5 つの課題について議論し、専門職集団としての知識や行動などを推進する指針となるものである。それらは、

(1)新技術は情報にアクセスする者を拡大し制限もする

New Technologies will both expand and limit who has access to information.

(2) オンライン教育はグローバルな学習を民主化し混乱もする

Online Education will democratise and disrupt global learning.

(3)プライバシーとデータ保護の境界は再定義される

The boundaries of privacy and data protection will be redefined

(4)超連携社会は新しい声と集団に耳を傾け力を与える

Hyper-connected societies will listen to and empower new voices and groups.

(5)グローバル情報環境は新技術にとり変形していく

The global information environment will be transformed by new technologies.

それぞれの問題提起にしたがって議論していくことが求められている。

「情報へのアクセスと開発に関するリヨン宣言」はこのトレンド・レポートにみられる IFLA の政策を国連レベルで議論し、図書館の存在意義と役割を国際社会に認識させようというものである。そのことにより、

(1)図書館が質の高いサービスと訓練されたスタッフを提供するための十分な財政基盤を獲得し、(2)開かれた政府/行政、情報へのアクセス、文化政策決定に図書館を包括して、(3)あらゆる形態のすべてのメディアに及

ぶ利用者が多様な情報へアクセスできるようにし、(4)国連の人権宣言第 19 条につながるすべての人々に情報へのアクセスを提供する自由を有している、のが図書館であると主張するのである。

<2> FAIFE の活動について

上記のように IFLA の核となる活動の多くが情報への自由なアクセス、さらに国連活動と連動しての、教育や職業訓練・確保など持続可能な開発を支える情報提供、教育学習機会の提供などに図書館が重要な役割を果たしていることを国際社会に認知させ、そのための積極的な行動の裏付けを求めている。したがって、FAIFE が個別に対応する事例や、宣言(Manifesto)・声明(Statement)などもこの IFLA 活動と連動している。現在までに FAIFE が作成し、理事会や総会で支持あるいは承認を受けている図書館における知的自由や表現への自由なアクセスの分野での宣言や声明、ガイドライン(研修用資料など具体的活動指針)には以下のようなものがある。

<宣言 Manifesto>

- 「**図書館、情報サービスそして知的自由に関するグラスゴー宣言**」(2002 年 8 月 19 日グラスゴー大会で採択) The Glasgow Declaration on Libraries, Information Services and Intellectual Freedom¹⁴.
- 「**インターネット宣言**」(2002 年 8 月 23 日グラスゴー大会総会で採択) The IFLA Internet Manifesto¹⁵.
→※改訂中 2014 年 12 月以降公表予定
- 「**IFLA 透明性,グッド・ガバナンス,政治腐敗からの自由に関する宣言**」
Transparency, Good Governance and Freedom from Corruption¹⁶(2008 年 12 月 3 日)

<声明 Statement>

- 「**IFLA 知的自由に関する声明**」(1999 年 3 月 25 日ハーグにおいて理事会承認)IFLA Statement on Libraries and Intellectual Freedom.¹⁷ →改訂中
- 「**図書館と持続的発展に関する声明**」(2002 年 8 月 24 日グラスゴーにおいて理事会承認) Statement on Libraries and Sustainable Development¹⁸.
- 「**歴史的記録における個人識別情報へのアクセスに関する声明**」(2008 年 12 月 3 日ハーグにて理事会支持)IFLA Statement on Access to Personally Identifiable Information in Historical Records¹⁹.

<ほか>

- 「**図書館と情報社会における行動についてのアレクサンドリア声明**」(2005 年 11 月 11 日於アレクサンドリア図書館)Alexandria Manifesto on Libraries, the Information Society in Action²⁰
- 「**IFLA 図書館員と情報関連職の倫理綱領**」(2012 年 8 月理事会支持) (⇒別紙 2)
IFLA Code of Ethics for Librarians and Other Information Workers²¹.

<3> 情報への自由なアクセスと表現の自由に関する国際的動向

2010 年 ; IFLA/FAIFE 国際調査実施⇒World report <http://www.ifla-world-report.org/>

2011 年 ; 「倫理綱領」策定の動き、トルコでのインターネット・フィルタリング問題、アラブ圏におけるインターネットと政治、ハンガリーにおけるメディア問題、ウィキリークスと情報の自由について、など。

2012 年；「検閲」からインターネット時代の「検閲」実態についての調査(by フィンランド)、セルビア国立図書館館長問題、など。

2013 年；電子書籍貸出に関する課題、シリアにおける表現の自由と情報へのアクセスについて、イラク国立図書館問題、シンガポールでの絵本に対するクレームや表現の自由に関する課題、など。

2014 年；“忘れてもらう権利”、DTM、(仮称)「プライバシーに関する宣言」(策定中)、など。

¹ (1)図書館活動を通じての発展への行動 Action for Development through Libraries Programme (ALP)

(2) 著作権および法的課題に関する委員会 Committee on Copyright and other Legal Matters (CLM)

(3) 基準に関する委員会 Committee on Standards

(4) 保存保護に関する戦略的活動 Strategic Programme on Preservation and Conservation (PAC)

(5) UNIMARC に関する戦略的活動 UNIMARC Strategic Programme

そして FAIFE となっている。

² <http://www.ifla.org/faife> <https://www.facebook.com/faife> ほかに YouTube、Twitter あり

³ <http://www.ifla.org/activities-and-groups#main-ifla-topics> (2014.10.26.確認)

⁴ Copyright Limitations and Exceptions for Libraries & Archives. <http://www.ifla.org/copyright-tlib> (2014.10.26.確認)

⁵ Cultural Heritage: IFLA's work on preserving cultural heritage. <http://www.ifla.org/cultural-heritage> (2014.10.26.確認)

⁶ IFLA and the Information ; Libraries, WSIS and Internet Governance

<http://www.ifla.org/information-society> (2014.10.26.確認)

⁷ IFLA, Libraries and Development. <http://www.ifla.org/libraries-development> (2014.10.26.確認)

⁸ eLending for Libraries: IFLA, ebooks and Access to Digital Content. <http://www.ifla.org/e-lending> (2014.10.26.確認)

参考：「E1607 IFLA, 電子書籍の貸出をめぐる各国の動向を紹介」カレントアウェアネス-ENo.266 2014.09.11

<http://current.ndl.go.jp/e1607> (2014.10.26.確認)

⁹ The IFLA Position on Internet Governance (改訂版 Jan.2013 公表)

<http://www.ifla.org/files/assets/hq/topics/info-society/ifla-position-on-internet-governance-2013.pdf> (2014.10.26.確認)

¹⁰ 「図書館と開発に関する声明」IFLA Statement on Libraries and Development (approved by the Governing Board of IFLA meeting on 24 August 2002 in Glasgow)

<http://www.ifla.org/publications/ifla-statement-on-libraries-and-development> (2014.10.26.確認)

¹¹ 「情報へのアクセスと開発に関するリヨン宣言」the Lyon Declaration on Access to Information and Development

Aug.2014 <http://www.lyondeclaration.org/> (2014.10.26.確認) ⇒別紙 1

※別紙 1 翻訳情報源：公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会 情報センター

http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/access/ifla/lyon-declaration_jp.html (2014.10.26.確認)

¹² Toolkit: Libraries and the UN post-2015 development agenda. Oct.2014

<http://www.ifla.org/libraries-development/toolkit> (2014.10.26.確認)

¹³ Trend Report <http://trends.ifla.org/> (2014.10.26.確認)

¹⁴ The Glasgow Declaration on Libraries, Information Services and Intellectual Freedom. (Proclaimed by the Council of IFLA 19 August 2002, Glasgow)

<http://www.ifla.org/publications/the-glasgow-declaration-on-libraries-information-services-and-intellectual-freedom>

(2014.10.26.確認)

¹⁵ 「IFLA インターネット宣言」The IFLA Internet Manifesto (Adopted unanimously without dissent or abstentions on Council meeting of the 68th IFLA General Conference and Council, August 23rd 2002, Glasgow, Scotland.)

<http://www.ifla.org/files/assets/faife/publications/policy-documents/internet-manifesto-en.pdf> (2014.10.26.確認)

なお、このインターネット宣言についての研修資料が作成されており、複数言語で提供されている。

<http://www.ifla.org/publications/learning-materials-for-workshops-on-the-ifla-internet-manifesto?og=30>

(2014.10.26.確認)

¹⁶ 「IFLA 透明性,グッド・ガバナンス,政治腐敗からの自由に関する宣言」

Transparency, Good Governance and Freedom from Corruption(Endorsed by the IFLA Governing Board,3 December 2008)

<http://www.ifla.org/publications/ifla-manifesto-on-transparency-good-governance-and-freedom-from-corruption?og=30>

(2014.10.26.確認)

参考：金容媛「研究ノート 透明性,グッド・ガバナンス,政治腐敗からの自由に関する国際図書館連盟の宣言 (2008 年 12 月 3 日発表)」文化情報学第 16 巻第 1 号(2009)45-47p

この宣言についても研修資料が作成され、複数言語で提供されている。

<http://www.ifla.org/publications/learning-materials-for-workshops-on-the-ifla-manifesto-on-transparency-good-governance-?og=30> (2014.10.26.確認)

¹⁷ 「IFLA 図書館と知的自由に関する宣言」 IFLA Statement on Libraries and Intellectual Freedom (approved by The Executive Board of IFLA 25 March 1999, The Hague.)

<http://www.ifla.org/publications/ifla-statement-on-libraries-and-intellectual-freedom>(2014.10.26.確認)

日本語版 http://archive.ifla.org/faife/policy/iflastat/iflastat_ja.htm(2014.10.26.確認)

¹⁸ 「図書館と持続可能な発展に関する宣言」 Statement on Libraries and Sustainable Development(approved by the Governing Board of IFLA meeting on 24 August 2002 in Glasgow)

<http://www.ifla.org/publications/statement-on-libraries-and-sustainable-development?og=30> (2014.10.26.確認)

¹⁹ 「IFLA 歴史史料における個人的認識可能情報へのアクセスに関する宣言」 IFLA Statement on Access to Personally Identifiable Information in Historical Records.(Endorsed by IFLA Governing Board, 3 December 2008)

<http://www.ifla.org/publications/ifla-statement-on-access-to-personally-identifiable-information-in-historical-records?og=30> (2014.10.26.確認)

²⁰ 「行動する図書館と情報社会に関するアレクサンドリア宣言」 Alexandria Manifesto on Libraries, the Information Society in Action(Adopted in Alexandria, Egypt, Bibliotheca Alexandrina, on 11 November 2005)

<http://www.ifla.org/publications/alexandria-manifesto-on-libraries-the-information-society-in-action> (2014.10.26.確認)

²¹ 「IFLA 図書館員と情報専門職の倫理綱領」 IFLA Code of Ethics for Librarians and other Information Workers (full version) (Endorsed by the IFLA Governing Board, August 2012) ⇒別紙 2

<http://www.ifla.org/news/ifla-code-of-ethics-for-librarians-and-other-information-workers-full-version> (2014.10.26.確認)

日本語版 <http://www.ifla.org/files/assets/faife/codesofethics/japanesecodeofethicsfull.pdf> (2014.10.26.確認)